

## 環境マネジメントへの取り組み

NEXCO中日本では「環境・持続可能社会への貢献」の考えのもと、当社の環境活動を継続的に改善していく環境マネジメントを経営に取り入れて活動を進めてまいります。

### 環境活動成果

高速道路の環境に対する影響は広範囲に及びます。本報告書では、把握可能な代表的な環境への影響を以下にまとめました。

当社は、環境活動による環境への影響やコストを今後も幅広く定量的に把握していきます。

### ISO14001の認証取得

2010年度本社では、環境方針に基づき、環境マネジメントシステム(EMS)を構築しました。本社はこれに基づき環境活動を行っています。当該EMSは2010年12月にISO14001を認証取得しました。

2011年度はEMSに基づく環境活動をすべての支社及び事務所へ拡大する予定です。



ISO14001 登録証(複写)

### 環境活動の計画と実績(総括)

指数	2010年度		2011年度計画値	長期計画値(2015年度)	ページ	
	目標値	実績値				
<b>交通渋滞対策の実施</b>						
高速道路網の整備(早期開通へ努力)	整備延長	13km	13km	2km	(2011~2015年度) 305km(累計)	P16・P50
高速道路のり面の樹林化	樹林化 面積比率(対象1,300ha)	99%(累計1,287ha)	99%(累計1,287ha)	100%(累計1,300ha)	100%	P52
<b>資源の3R推進</b>						
建設発生土	再利用率(発生量)	長期計画値以上	98.8%(1,986千m <sup>3</sup> )	長期計画値以上	95%以上	P66
アスファルト・コンクリート塊	再資源化率(発生量)	長期計画値以上	99.9%(325千t)	長期計画値以上	98%以上	P66
コンクリート塊	再資源化率(発生量)	長期計画値以上	99.3%(65千t)	長期計画値以上	98%以上	P66
建設発生木材	再資源化・縮減率(発生量)	長期計画値以上	96.4%(15千t)	長期計画値以上	95%以上	P66
建設汚泥	再資源化・縮減率(発生量)	長期計画値以上	99.7%(7千t)	長期計画値以上	95%以上	P66
<b>営業中の高速道路からの騒音対策</b>						
遮音壁の設置	設置延長	899km	898km	902km	(要請に応じ対策実施)	P60
高性能舗装の設置	設置率(対象6,196km車線)	143km車線(4,956km車線) 81%	127km車線(4,940km車線) 80%	88km車線(5,028km車線) 81%	340km車線(5,368km車線) 87%	P60

上記表の「資源の3R推進」では、目標・実績は2007年度に完了した「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に定める特定建設資材の工事での再資源化率などを記載しています。長期計画値について、アスファルトコンクリート塊・コンクリート塊及び建設発生木材は、国土交通省の「建設リサイクル推進計画2008」(2008年4月)の計画目標を当社の計画値とし、それ以外については当社独自の計画値としています。

### 事業活動成果

当社グループでは、高速道路やサービスエリア・パーキングエリアなどの休憩施設の建設、維持・保全とその他の事業を行ううえで、その事業活動が環境に与える影響(環境負荷)を定量的に把握するように努めています。

また、把握した環境負荷の削減をめざして環境に配慮した事業活動や取り組みを企画・立案し、実施しています。事業活動(建設・工事、保全・関連事業)に関わる2010年度の環境負荷のマテリアルフローは、以下のとおりです。

### 事業活動に伴う環境負荷のマテリアルフロー(2010年度実績)

